

■林芙美子 小説家。波乱の生立ち「放浪記」で一躍文壇の寵児，戦時下に大活躍，〈敗戦〉後に「浮雲」を発表して早世。

はやしふみこ

日比谷公園・1903＝ 母キク（鹿児島市出身）と行商人との間の私生児として誕生（生地は下関市か門司市）。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

大逆事件判決1911＝ 8歳：母が番頭（義父）と芙美子を連れて家出（義父は芙美子を可愛がり問題は無かった。また実父も了解した関係だったようである）。以後各地を転々とした後，

明治天皇没・1912＝ 9歳：

民本主義・・・1916＝13歳：尾道の尋常小学校5年の時，_小林正雄訓導により，文才を発見される（以後生涯を通じて敬慕）。

本格政党内閣1918＝15歳：尾道市立高女に入学し，_国語教師今井篤三郎に文才發揮の指導を受ける（以後生涯を通じて敬慕）。

原敬首相暗殺1921＝18歳：実父の祖父の葬儀に一人で愛媛に行き，実父に会う。_有力地方紙に詩と短歌の投稿を始める。

水平社結成・1922＝19歳：卒業。因島出身の恋人を頼って，上京。やがて，父母も上京し，その露店や夜店を手伝う。

関東大震災・1923＝20歳：恋人は結婚の約束を破って帰郷。_関東大震災で尾道に戻った折，小林正雄に芙美子の筆名を勧められる。

護憲三派圧勝1924＝21歳：その後，_女中，女工，女給など各種の職業を遍歴しながら詩や童話を書く。アナーキスト詩人萩原恭次郎，岡本潤らと交わり，平林たい子の小説が大阪朝日新聞の懸賞に当選したことに触発され，
円本時代始・1926＝23歳：_尾道に戻って「風琴と魚の町」に着手。画学生手塚緑敏と結婚して，男性遍歴に終止符を打つ。

共産党事件・1928＝25歳：_長谷川時雨の{女人芸術}に詩「黍畑」，続いて時雨の夫三上於菟吉の推薦で「放浪記」を発表。

世界恐慌・・・1929＝26歳：_{女人芸術}に「耳」，{改造}に「九州炭坑街放浪記」を発表。詩集「蒼馬を見たり」を刊行。

海軍軍縮条約1930＝27歳：*「放浪記」が改造社から単行本として出るやベストセラーとなった。その収入で中国旅行。「続放浪記」，
満州事変・・・1931＝28歳：*{朝日新聞}に「春浅譜」を連載。{改造}に「風琴と魚の町」「清貧の書」など自伝的小説を発表，文壇の第一線の作家となっていく。この年，欧州旅行。「放浪記」が浅草で上演される。

五一五事件・1932＝29歳：上海で魯迅に会って帰国。「屋根裏の椅子」「小区」を発表。

国際連盟脱退1933＝30歳：短編集「清貧の書」，詩集「面影」を刊行。共産党への寄附で一時拘留される。義父が死去，母を引き取る。

帝人疑獄事件1934＝31歳：「鳶」「塵溜」「山中歌合」を発表，「泣虫小僧」を連載。

芥川直木賞始1935＝32歳：「霞の降る日」「人生賦」を発表，「野麦の唄」を連載。短編集「牡蛎」の出版記念会は自費で行う。_「放浪記」が画化される。

二二六事件・1936＝33歳：「枯葉」「追憶」を発表，「稻妻」を連載。_ジャン・コクトーに花束贈呈したり，毎日新聞主催の国立公園早廻り競争に参加，さらに，満州，中国を自費で一等旅行するなど活発に行動。

日中戦争始・1937＝34歳：「行雁」「鼈」発表，「南風」連載。「林芙美子選集」刊行開始。_毎日新聞特派員として戦地に一番乗り。

健保+総動員 1938＝35歳：「泣虫小僧」が映画化。「杜鵑」を発表，「波涛」を連載。「林芙美子長編小説全集」刊行開始。_内閣情報部の従軍ペン部隊の一員として，漢口に一番乗り。帰国後，各地で講演。

第二次大戦始1939＝36歳：「一人の生涯」を連載。2年前に応召されていた緑敏が除隊となって戻る。

大政翼賛会・1940＝37歳：「歴世」「魚介」を発表，「十年間」を連載。_朝鮮へ講演旅行。

日米開戦・・・1941＝38歳：「旅人」を発表，「雨」「川歌」を連載。_朝日新聞の委嘱で満州各地を慰問旅行。

・・・・・・1942＝39歳：_報道班員として南方に派遣され，東南アジア各地に滞在。

創価学会検挙1943＝40歳：帰国。生後間もない男児をもらいうけ，泰と名付ける。

年金+総武装 1944＝41歳：夫緑敏と泰を林家に入籍。疎開中，童話を書いて子供たちに読み聞かせる。

敗戦・・・・・・1945＝42歳：帰京。実父が下関で死去。

新憲法公布・1946＝43歳：「吹雪」「牧歌」「ボルネオ・ダイヤ」を発表，「女の日記」をはじめ，_単行本を次々と刊行。

新憲法施行・1947＝44歳：「河沙魚」「指」を発表，「放浪記第三部」「うず潮」を連載。童話集「狐物語」を刊行。

極東裁判決・1948＝45歳：「夜の蝙蝠傘」「荒野の虹」「あぢさゐ」「退屈な霜」「晩菊」を発表。「林芙美子文庫」刊行開始。

三大事件・・・1949＝46歳：「茶色の目」を連載，「骨」「水仙」「牛肉」「下町」を発表。*生涯の傑作「浮雲」の連載を始める。「晩菊」により女流文学者賞。

朝鮮戦争始・1950＝47歳：「夜猿」「軍歌」「折れ蘆」「金糸雀」を発表，「冬の林檎」「絵本猿飛佐助」を連載。

独立回復・・・1951＝48歳：「浮洲」「御室の桜樹」を発表，「漣波」「女家族」「めし」を連載。*「名物食べあるき」の連載取材中，心臓麻痺のため没した。